

一般質問

鈴木 立
議員

○生活民具類の収集保存について

質 民族資料館等が建設されることとなったときに、展示する民具が朽ち果て、また、散在して陳列するものがない現実直面するのではないかと危惧される。先代の人たちが家族を養うために一所懸命農耕に精を出し、収穫して家庭を潤し、五穀豊穡の祭をして感謝する、そういう生活の証としての民具がなくなってしまうのは教育的にも非常に損失だと思う。先代が使ってきた農具や漁具など、実物を見て、学習して、それを脳裏に刻むことで一層郷土愛が芽生えてくるのではないかと思う。一刻も早く収集をすることが非常に大事ではないか。どう対策を講じようとしているのか考えを伺いたい。

文化財課長

人々の生活の様子がどのようにに移り変わってきたのかを学習する上での生活民具、民族資料等の重要性は認識しております。市では、効果的に資料の収集、保存、展示公開を行うために歴史と民族に係る史料・資料収集ガイドラインを定め、これに基づき収集を行っております。このガイドラインは、市のホー

ムページでも公開しています。市民皆様からの情報の提供は大切なことと思っており、引き続き関係団体と連携を図り、情報の収集に努めてまいります。

○志佐川の水域の環境改善について

質 現在、人間というものは機械に追われ、人間関係に心身を消耗し、うつ病や精神的な疲労で仕事を休む方々も多くなっている。そういう人の心の癒しには河川敷の散策は効果的です。自然の中で心を癒すことは大事なことだと思う。昔はウナギ、ドンコ、カニ、フナがおりましたが、今はブロックで覆われています。川に生息する生き物たちに優しい川を目指した環境づくりをして頂きたい。

上下水道課長 志佐川の環境調査に関しては、26年度まで5年間実施し、その一環として工業用水の取水堰に魚道を設置しアユの遡上調査を行いました。遡上時期は4月上旬がピークであるとの結果も得ています。今後の対応としては、志佐川内水面協議会とも協議を行い、段差のある堰の改良工事や頭首工の整備など生物に配慮した環境整備の事業展開を進めていきたいと考えます。稚アユの放流についても、その数を増やすなど、その生息を助けていきたいと思っています。

一般質問

久枝 義
議員

○給食費無料化について

質 小中学校給食費補助事業を平成24年度から実施し、25年度には1千158万9千円を支出している。小学生と中学生の保護者の年間負担額は幾らとなっているか。

教育総務課長

一人当たりの給食費は、小学生が年額約4万7千円、中学生が年額約5万6千円となります。**質** 給食センターの経費は年間幾らかかっているか。

教育総務課長

給食センターの経費は学校給食法に規定されており、27年度決算で市内3調理場あわせて1億8千160万円となります。

質 給食センター建設の年間リース料7千940万円の支払いが今年で終わる。この相当額を給食の経費に充てれば全生徒の給食費を無料にできるのではないかと考える。新年度から無料にはできないか。

市長

生徒の保護者を対象に給食費助成制度に関するアンケート調査を行ったところ、現在の補助制度を継続してほしいという回答がある一方、エアコン設置やコンピューター整備といった教育環境の充実や学力向上

に資する施策に予算を配分してほしいという回答もあります。このことから、学校教育費としては、給食費助成制度は現状を維持しつつ新たな施策等の実施に予算化を図りたいと考えます。

○鷹島モンゴル村に再生可能エネルギー基地について

質 国は2020年度から国策として水素自動車の普及が進められると聞く。水素エネルギーは人類究極のエネルギーといわれ、既に九州大学も本格的に研究し、糸島キャンパスは研究拠点になっているそうだ。新産業分野であるため、産業振興につながり、本市の地域振興にも寄与するのは間違いない。水素は無害で、様々な施設等の電源ともなる。鷹島地区の振興を図るために、鷹島ダムを利用した水素製造会社の誘致や公募による企業誘致に取り組んだらどうか。まず、そういう研究機関をつくつたらどうか。

市長

本市はエネルギーのまちということを標榜しており、市の将来の在り方や電源地域としてどのようにするかということについては検討を始めたところです。議員からも水素という新たなご提案を頂きましたし、新たな産業分野になろうと思われまます。まずは、このことについて研究していきたいと思っています。